

岩手県総合防災訓練

日時：2024年11月10日（日）

場所：東和体育館（花巻市東和町）

時間：8：30～12：00 頃

歯学部 第5年 学生

防災訓練を通じて、警察の方々を始め、医療従事者（医師、歯科医師、DPAT など）、自衛隊、電力会社、通信会社（NTT、楽天）など、他に気が付いていない様々な団体、企業の関係者の協力がないと成り立たない規模であることを改めて感じました。体育館内の設営では、4年生の講義の際に、模造紙上でイメージした体育館の設営のことを思い出しました。ご遺体の搬入場所から順番に、身元確認がなされ、ご遺族との対面場、棺桶の準備など、机上で作成したイメージと今回の現場での訓練を見て、想像力の不足を感じました。平面ではイメージしにくいこと、例えば、構造的な段差や入り口・仕切り板の高さ、寒さ、声の通りにくさなど、気付く点がありました。また、今回の体育館の大きさを見て、実際にこの設営にどれくらいの時間がかかったのか、誰か設計したのか機会があれば伺いたいと思います。

身元確認では、口腔内審査、歯式の記入、36 検索の入力をさせて頂きました。その中で、清潔域、不潔域の徹底、デンタルチャート（死後記録）への歯式の書き方の統一など、歯科医師の先生方の間においても足並みをそろえる難しさを感じました。一方、36 検索のシステムは、使い方の慣れもあると思いますが、身元確認のツールとしてその効果を実感しました。電子カルテの共有や、アプリなどでゲーム化などすることが出来れば、もっと歯科医師にとって36 検索が身近な存在になるようにも感じました。

また、市役所の死後の手続きについて関しては、外国人災害者に対してフォローの難しさを知りました。市役所の手続きは日本人でも大変な場合がある中、外国人の場合はまず言葉のハードルがあり、通訳の方がおられたとしても時間がかかり、思いを伝えることの難しさを見学させて頂きました。実際には、通訳の方がおられるかどうか不明ですし、双方のやり取りにもっと混乱が生じることが想像できました。

今回、防災訓練を通して、たくさんの関係者の方が1つのチームとなって活動していることが知ることができました。その中で歯科医師がすべきことも一部作業に参加させて頂くことでその中身を知ることが出来ました。特に、感染対策においては、PPE やシューズカバーの着脱、手袋したままの作業、一次的に手袋を外しての作業、作業に使用したボールペンの取り扱い、記入後の用紙など、作業の前提となる清潔・不潔の確認をしっかりしたいと思いました。その他、初めての方と円滑に作業を進めるために、業種だけでなく可能であればガムテープに氏名を書くなど、お互い呼びかけやすい環境を整える必要性もあると感じました。今後、南海トラフ地震など、いつ発生するかわからない震災に備えてこのような訓練を定期的に行う大切さを感じます。そして、人種関係なく一人でも多くのご遺体をご家族のもとに帰ることができるよう貢献したいと思いました。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。